

- ① 重い道具を持つことができないことに加え、作業で汚したり散らかした箇所の掃除を自ら行うことができず、これらの行為について介助を要する。
- ② 知的障害や認知・記憶・注意等の障害を併せ持つことにより、繰り返し説明をしても道具の設置・収納場所を理解できず、準備や後片付けに支援や介助を要する。

[各選択肢の基準]

- (ア) 全面的な支援が必要：準備や後片付けのほとんど全てに支援を要する。
- (イ) 部分的な支援が必要：準備や後片付けについて、一部支援を要する。あるいは、繰り返し説明しても道具の設置・収納場所を正確に理解できないが、指示等の支援をすれば準備または後片付けができる。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

二. 作業技術の習得及び作業の遂行に関する支援

[→身障通所授産テに同じ。]

作業を遂行する上で、補助具や支援を必要とするかどうかを判断する。（ただし、本項目は、作業の内容理解を問うものではない。）

具体的な対象例としては、

- ① 身体障害により、作業に必要となる専門的な道具（パソコン、電動のこぎり、農機具等）を使用するために本人の状況に合わせ特別の補助具が必要である。
- ② 作業全般について、個別の工夫や支援を行う等の手助けを必要とする。（知的障害や、認知・記憶・注意等の障害を併せ持つ者を含む。）

[各選択肢の基準]

- (ア) 全面的な支援が必要：個別の補助具を必要とし、その補助具の使用を含めた作業技術の習得を必要とすることに加え、なおかつ作業の遂行のために、手助けを必要とする。（聴き取りの際には、生活関連行為や作業の遂行に当たり、現在、補助具を使用していることに加え、手助けを受けている状態であれば、本選択肢に当てはまるものと判断する。）
- (イ) 部分的な支援が必要：個別の補助具を必要とし、その補助具の使用を含めた作業技術の習得を必要とする。（聴き取りの際には、生活関連行為や作業の遂行に当たり、現在、補助具を使用している状態であれば、本選択肢に当てはまるものと判断する。）
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

又. 各々の障害に応じたコミュニケーション手段による支援及びコミュニケーション訓練

[→身障更生ト、身障療護ノ、身障通所授産トに同じ。]

視覚障害、聴覚障害、言語障害あるいは盲・ろうの重複障害等、各々の障害に応じたコミュニケーション手段・機器（例：点字、音声出力、印刷物の拡大、手話、指文字、意思伝達装置等）による支援を必要としているかどうか、また、コミュニケーション手段の習得について支援が必要であるかどうかを判断する。（知的障害や認知・注意・記憶障害等を併せ持ち、コミュニケーションが制限されているために、支援を必要とする場合を含む。）

[各選択肢の基準]

- (ア) 全面的な支援が必要：上記に示すいずれかの障害により、コミュニケーション支援

3 身体障害者授産施設支援（入所）

機器の利用や手話等といった特別のコミュニケーション手段の習得について支援を要する。

- (イ) 部分的な支援が必要：コミュニケーション支援機器やコミュニケーション手段を必要とする。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

ネ. 代筆、電話の仲立ち等に関する支援

[→身障更生ナ、身障療護ハ、身障通所授産ナに同じ。]

「読み」、「書き」、「会話」に制限がある（例：視覚障害、聴覚障害、言語障害あるいは盲・ろうの重複障害、脳性まひ等の機能障害）、あるいは電話やFAXといった通信機器の操作に制限がある（例：上肢機能障害等）ためを対象として、代筆や電話の取次ぎ、電話の応対をする等の支援を必要とするかどうかを判断する。

[各選択肢の基準]

- (ア) 全面的な支援が必要：電話やFAXの代行、またはワープロ、パソコン等の操作について支援を必要とする。
- (イ) 部分的な支援が必要：電話やFAXの使用、またはワープロ、パソコン等の操作について見守りや確認といった支援を必要とする。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

ノ. 退所後の生活支援の体制作り等に関する支援

[→身障通所授産ニに同じ。]

在宅生活を想定した場合、障害者用住宅の確保や住宅の改造、日常生活上の様々な行為（買い物、食事、洗濯等）に対する支援の体制作りを必要とするかどうかを判断する。

[各選択肢の基準]

- (ア) 全面的な支援が必要：全身性障害者（四肢まひ、脳性まひ）等や知的障害を併せ持つ者であって、住宅改造や日常生活上の様々な行為について多くの支援を必要とする。
- (イ) 部分的な支援が必要：（ア）で挙げたような障害状況にはないが、住宅改造や日常生活上の様々な行為について支援を必要とする。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

ハ. 就職先の選定及び就職先との調整に関する支援

退所後に就職を希望している場合（福祉工場、通所授産施設、小規模作業所等を含む。）に、就職先の選定や就職後の連絡・調整等について個別的支援が必要であるかどうかを判断する。（聴き取りの際には、職場環境等の改善（車いす対応等）や、特別な障害者用補助機器（音声入力装置、特殊スイッチ等）の用意が必要であるかにより判断する。）

[各選択肢の基準]

- (ア) 全面的な支援が必要：四肢まひ、脳性まひ、盲・ろう重複障害、身体障害に併せ知的障害を持つ等の重度あるいは重複障害者であり、上記のような希望先の職場環境等の改善や障害者用補助機器の用意が必要である。
- (イ) 部分的な支援が必要：（ア）で挙げたような障害状況にはないが、職場環境等の改善や障害者用補助機器の用意が必要である。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

4 身体障害者授産施設支援（通所）

身体障害者授産施設支援（通所）に係るチェック項目については、以下により、どの選択肢に当てはまるか判断する。

ア. 屋内での移動に関する介助

〔→身障更生イ、身障入所授産イに同じ。〕

屋内の移動について支援が必要かどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

- ① 四肢まひ、脳性まひ等により、車いす（電動・手動）や杖等の補装具を用いて、自ら屋内を移動することが困難であり、介助を必要とする。
- ② 視覚障害により、視覚的な安全確保等に制限があり、支援を必要とする。
- ③ 知的障害や認知・記憶・注意等の障害を併せ持つことにより、目的の場所までの経路を理解する等、安全・確実に移動することに制限があり、支援を必要とする。

〔各選択肢の基準〕

- (ア) 全面的な支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であり、全面的な介助や支援を必要とする。
- (イ) 部分的な支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であり、一部介助や見守り等の支援を必要とする。（①立位歩行、車いす歩行を含め、廊下の手すり等を利用して移動は可能であるが、著しく歩行速度が遅かったり、ちょっとした衝撃でも転ぶ危険がある、②電動車いすを利用しているが操作が不安定で、物や人に当たってしまうことがある、等を含める。）
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

イ. 屋外での移動に関する介助

〔→身障更生ウ、身障療護カ、身障入所授産ウに同じ。〕

屋外の移動について支援を必要とするかどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

- ① 車いす（電動・手動を問わない。）を利用しているため、あるいは視覚障害により、砂利道・階段・スロープ、人ごみ、昼間と夜間といった環境の変化や、交通機関の利用等の条件を含めて制限があり、支援を必要とする。
- ② 知的障害、認知・記憶・注意等の障害を併せ持つことにより、目的地までの経路を理解する等、安全・確実に移動することに制限があり、支援を必要とする。

〔各選択肢の基準〕

- (ア) 全面的な支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であり、全面的な介助や支援を必要とする。
- (イ) 部分的な支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であり、一部に介助を必要とする。または見守りや確認を必要とする。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

4 身体障害者授産施設支援（通所）

ウ. 食事の準備、摂食及び後片づけに関する支援

〔→身障入所授産エに同じ。〕

摂食行為を含め、食事の準備から後片づけまでの一連の行為（以下、本項目において「一連の行為」という。）について、支援を必要とするかどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

- ① 四肢まひ、脳性まひ、片まひ、上肢の機能障害等により、一連の行為について支援を必要とする。
- ② 知的障害や、認知・記憶・注意等の障害を併せ持つことにより、一連の行為に関する適切な習慣や方法が習得されておらず、支援を必要とする。
- ③ 嚥下障害等により食物をのどに詰まらせる恐れがあり、支援を必要とする。

〔各選択肢の基準〕

- (ア) 全面的な支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であり、一連の行為について全面的な支援や介助を必要とする。
- (イ) 部分的な支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であり、一部介助や見守り等の支援を必要とする。あるいは、嚥下障害等により、きざみ食やミキサー食等の用意、またはカロリー制限や食物制限により特別食の用意を必要とする。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

エ. 排泄行為に関する支援

排泄行為について支援を必要とするかどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

- ① 四肢まひ、脳性まひ、片まひ等により、排泄場所までの移動を含め、排泄行為について支援を必要とする。
- ② 膀胱直腸障害等により尿意・便意等がないため、失禁をすることがあり、支援を必要とする。
- ③ 知的障害や、認知・記憶・注意等の障害を併せ持つことにより、適切な排泄習慣が習得されておらず、失禁等の後始末に支援を必要とする。

〔各選択肢の基準〕

- (ア) 全面的な支援が必要：上記いずれかの対象例のような状態であり、全面的な介助や支援を必要とする。（ここでいう全面的な介助や支援を必要とする行為の中には、おむつや特殊な排泄器具（収尿器、膀胱・直腸ろう、オストミー等）の利用者で全面的な介助や支援を必要とする者を含む。）
- (イ) 部分的な支援が必要：上記いずれかの対象例のような状態であり、一部介助や見守り等の支援を必要とする。（ここでいう一部介助や支援を必要とする行為の中には、おむつや特殊な排泄器具の利用者で一部介助や見守り等の支援を必要とする者を含む。）
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

オ. 医療処置、受診等に関する援助

医療処置や受診等について支援が必要であるかどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

- ① 糖尿病や腎不全、呼吸器障害等の疾病や障害により、インスリンの自己注射、人工透析（持続式携帯型腹膜灌流を含む）、呼吸器管理、痰の吸引等、日常的な医療処置を必要とする。
- ② 視覚障害、聴覚・言語障害を持つ者、知的障害を併せ持つ者が、一時的に入院が必要になった場合に、身の回りの世話（医療機関の看護師が対応する範囲を除く。）を必要とする。
- ③ 知的障害、てんかん、認知・記憶・注意等の障害を併せ持つことにより、薬の飲み忘れや飲み過ぎ・飲み残しが無いよう服薬管理を必要とする。

[各選択肢の基準]

- (ア) 常に支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であり、常に支援を必要とする。
- (イ) ときどき支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であり、ときどき支援を必要とする。
- (ウ) 支援の頻度が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

カ. 医師等の診断結果及び説明の理解に関する支援

[→身障更生キ、身障療護セ、身障入所授産ケに同じ。]

医師等からの診断結果等についての説明の理解に支援を必要とするかどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

- ① 全盲や強度の弱視、知的障害等により、病名や薬の処方等の文字を確認することに制限があり、第三者を介しての説明を必要とする。
- ② 手話通訳等何らかのコミュニケーション支援を必要とする。
- ③ 本人に合った説明の工夫をする等の支援を必要とする。

[各選択肢の基準]

- (ア) 全面的な支援が必要：説明を受ける際は、必ず生活支援員等が上記対象例の①、②または③の支援を行うことが必要である。
- (イ) 部分的な支援が必要：言葉や文字の利用に制限はないものの、説明の内容等を理解できたかどうかの確認を必要とする。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

キ. 健康管理に関する支援

[→身障更生ク、身障療護ソ、身障入所授産コ、知障入所更生コ、知障通所更生オ、知障入所授産キ、知障通所授産オ、知障通勤寮ウに同じ。]

健康管理について支援を必要とするかどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

- ① 肥満になり易い、じょくそう（床ずれ）になり易い、アレルギーがある、てんかん発作を起こす等のため、健康管理（血圧、体温または排便状態のチェック、運動面を含めた助言。）を必要とする。

4 身体障害者授産施設支援（通所）

- ② 糖尿病や高血圧症等の疾病のため、栄養管理（食物制限、カロリー制限等。）を必要とする。

〔各選択肢の基準〕

（ア）毎日支援が必要：医師あるいは看護師・栄養士による毎日の健康管理または栄養管理を必要とする。

（イ）ときどき支援が必要：看護師・栄養士による健康管理または栄養管理をときどき必要とする。

（ウ）支援の頻度が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

ク. 金銭管理に関する支援

〔→身障療護チに同じ。〕

金銭管理について支援を必要とするかどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

- ① 知的障害や認知・記憶・注意等の障害等を併せ持つことにより、金銭の収入・支出の把握や出し入れする金額の計算等について支援を必要とする。

- ② 四肢まひ、脳性まひ、上肢機能障害等の機能障害により、自ら金銭をしまっておくことができず、金銭管理に支援を必要とする。

〔各選択肢の基準〕

（ア）全面的な支援が必要：上記①の対象例のような状態であり、金銭を財布等にしまっておくことや数百円程度のお金の出し入れにも制限がある等、金銭の管理に関わる行為の全てにおいて支援を必要とする。

（イ）部分的な支援が必要：上記①の対象例のような状態であり、1週間に1回程度以上金銭の残高を確認する等、金銭管理に関わる行為の一部に支援を必要とする。あるいは、上記②の対象例のような状態であり、金銭の管理を必要とする。

（ウ）支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

ケ. 強いこだわり、多動、パニック等の不安定な行動への対応

〔→身障療護テ、身障入所授産シに同じ。〕

知的障害や認知・記憶・注意等障害等を併せ持つために、

- ① 突発的に屋外へ飛び出したり、制止をしても動き回る、

- ② 特定の物や行為に強いこだわりを示す、

- ③ 環境の変化により泣き叫ぶ等パニックになりやすい

といった不安定な行動への対応が必要であるかどうかを判断する。

〔各選択肢の基準〕

（ア）毎日支援が必要：上記のような行動のいずれかへの対応がほぼ毎日必要である。

（イ）ときどき支援が必要：上記のような行動のいずれかへの対応が1～2日/週以上必要である。

（ウ）支援の頻度が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

コ. 集団生活等における不適応行動に関する支援

〔→身障療護ト、身障入所授産スに同じ。〕

知的障害、認知・記憶等の障害を併せ持つことにより、集団生活等における不適応行動について支援を必要とするかどうか判断する。

具体的な対象例としては、

- ① 就寝がなかなかできず、添い寝等の支援を必要とする。
- ② 昼夜が逆転しており、日中活動において居眠りを頻繁に繰り返すため支援を必要とする。
- ③ 偏食、過食、異色、過飲、反芻といった食事に関する不適応行動がある。
- ④ 弄便等の不適応行動がある。
- ⑤ 興奮すると、物を壊したり、自分や他人を傷つけてしまう。

〔各選択肢の基準〕

(ア) 毎日支援が必要：上記のような行動のいずれかへの対応がほぼ毎日必要である。

(イ) ときどき支援が必要：上記のような行動のいずれかへの対応が1～2日/週以上必要である。

(ウ) 支援の頻度が低い：上記(ア)・(イ)のいずれにも該当しない。

サ. 日常生活における不安、悩み等に関する相談援助

〔→身障更生サ、身障療護ナ、身障入所授産セ、知障入所更生ツ、知障通所更生サ、知障入所授産ス、知障通所授産サ、知障通勤寮クに同じ。〕

日常生活における不安や悩み等を自ら解決するのが困難であるため、解決方法を見出すための個別的な支援が必要であるかどうかを判断する。

〔各選択肢の基準〕

(ア) 困難性の高い支援が必要：不安や悩みの解決にカウンセリング技法等を必要とする。

(聴き取りの際には、現在も専門家によるカウンセリング等を受けているのであれば、本選択肢に当てはまるものと判断する。)

(イ) 支援が必要：不安や悩みの解決のために、生活支援員による相談面接を日常的に必要とする。(聴き取りの際には、過去において不安や悩み等を抱えて、専門家によるカウンセリング等を受けたことがあるのであれば、本選択肢に当てはまるものと判断する。)

(ウ) 支援の必要性が低い：上記(ア)・(イ)のいずれにも該当しない。

シ. 余暇活動及び地域の活動への参加等に関する支援

〔→身障更生シ、身障入所授産ソに同じ。〕

外出や余暇活動、地域の活動等への参加について支援が必要かどうかを判断する。なお、本項目でいう支援には、移動の介助を含まない。

具体的な対象例としては、

- ① 社会経験が乏しく、公共交通機関や商店等の利用方法を理解していないために付き添い等の支援を必要とする。
- ② 地域の行事やサークル活動、趣味等の余暇活動等に関する情報の収集や、これらの活動を行うための計画や準備を自ら行うことに制限があり、助言等を受ける必要がある。

4 身体障害者授産施設支援（通所）

- ③ 地域の行事やサークル活動、趣味等の余暇活動等の参加に当たっては、一人では行えず付き添い等の支援を必要とする。

[各選択肢の基準]

(ア) 全面的な支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態にあり、常にマンツーマンでの支援を必要とする。（聴き取りの際には、現在外出や何らかの余暇活動、地域の活動等を行っているかどうかを確認し、全く行っていないか、あるいは、行っているが常に付き添ってもらおう等の支援を受けているのであれば、本選択肢に当てはまるものと判断する。）

(イ) 部分的な支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態にあり、支援を必要とする。（聴き取りの際には、現在行っている外出や余暇活動、地域の活動等について、支援を受けているのであれば、本選択肢に当てはまるものと判断する。）

(ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

ス. 作業のための動機付けに関する支援

[→身障入所授産タに同じ。]

作業のための動機付けに関して支援を必要とするかどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

- ① どのように自立を果たすのかといったことに自分なりの考え方をもっていない。
② 作業の動機付けや実施する作業の意義・目的について、自分なりの意見や考え方を持っていない。

（聴き取りの際には、「授産施設に入りたい」あるいは、「授産施設で訓練を続けたい」という程度の漠然とした入所理由しか持っていないといった状況にあるかどうかで判断する。）

[各選択肢の基準]

(ア) 全面的な支援が必要：知的障害、認知・記憶・注意等の障害といたたいずれかの障害を併せ持つことにより、上記対象例で示すような状態である。

(イ) 部分的な支援が必要：（ア）で挙げた障害を併せ持っていないが、上記対象例で示すような状態である。

(ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

セ. 作業内容の理解に関する支援

[→身障入所授産タに同じ。]

作業内容を理解することに支援を必要とするかどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

- ① 作業内容や手順を自分なりの表現で説明できない。
② 作業内容を数回聞いた程度では、同じ作業をする他の者と同様に作業をすることができないといった状態である。

（聴き取りの際には、作業を自分なりの表現で説明できるかどうかで判断する。ただし、新規申請者については、「作業」を、本人が普段している掃除や洗濯等の日常生活関連行為に置き換える。）

[各選択肢の基準]

- (ア) 全面的な支援が必要：上記の対象例のような状態であり、作業の度毎に、何度も作業内容を説明することを必要とする。
- (イ) 部分的な支援が必要：上記の対象例のような状態であり、作業の度毎に最低 2～3 回は、作業内容を説明することを必要とする。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記 (ア)・(イ) のいずれにも該当しない。

ソ. 在宅生活に必要な生活関連行為を習得するための支援

[→身障更生セ、身障療護ヌ、身障入所授産ツ、知障入所更生ニ、知障通所更生ソ、知障入所授産ツ、知障通所授産ソ、知障通勤寮サに同じ。]

地域での在宅生活を想定した場合、在宅生活に必要な生活関連行為（例：清掃、洗濯、調理、献立を作ること、家計簿をつけること等）を習得するための支援が必要であるかどうかを判断する。

[各選択肢の基準]

- (ア) 全面的な支援が必要：上記のような生活関連行為の習得について、全てに支援を必要とする。
- (イ) 部分的な支援が必要：上記のような生活関連行為のうちの一部の習得について、支援を必要とする。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記 (ア)・(イ) のいずれにも該当しない。

タ. 作業のための送迎及び移動に関する支援

[→身障入所授産テに同じ。]

作業のための送迎や移動について支援を必要とするかどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

- ① 車いす（電動を含む）、杖等による移動を行っている。
- ② 視覚障害のため安全に歩行をすることが困難である。
- ③ 認知・記憶・注意等の障害や知的障害を併せ持つため、作業のために使う場所への道順を覚えられない。

[各選択肢の基準]

- (ア) 全面的な支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であって、移動にあたっては、マンツーマンの介助を必要とする。
- (イ) 部分的な支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であって、移動にあたっては、一部介助を必要とする、あるいは、道を間違えたり、転倒の危険がある等のため見守りを必要とする。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記 (ア)・(イ) のいずれにも該当しない。

チ. 作業中の安全への配慮

[→身障入所授産トに同じ。]

作業中の安全への配慮が必要であるかどうかを判断する。

具体的な対象例としては、

4 身体障害者授産施設支援（通所）

- ① 視覚障害のため、手元の状況を視覚的に確認することができない。
- ② 上肢や手指にまひや震せん等があり、巧緻性にかける。
- ③ 下肢・体幹に制限があり、立位や座位のバランスが不安定であるか、または長時間の立位の維持が困難である（ただし、上肢や体幹に制限がなく、座位バランスに支障のない車いす利用者は除外。）。
- ④ 知的障害やてんかんを併せ持つことにより、介助や配慮を必要とする。

[各選択肢の基準]

(ア) 常に支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であり、作業中は常に見守りや適宜の支援を必要とする。

(イ) ときどき支援が必要：上記のいずれかの対象例のような状態であり、作業中は、ときどき見守りや適宜の支援を必要とすることがある。

(ウ) 支援の頻度が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

ツ. 作業の準備及び後片付けに関する支援

[→身障入所授産ナに同じ。]

作業の準備と後片づけに関し、自ら行うことに制限があり、支援を必要とするかどうかを判断する。（聴き取りの際には、生活関連行為や作業の準備と後片付けについての現在の状況で判断する。）

具体的な対象例としては、

- ① 重い道具を持つことができないことに加え、作業で汚したり散らかした箇所の掃除を自ら行うことができず、これらの行為について介助を要する。
- ② 知的障害や認知・記憶・注意等の障害を併せ持つことにより、繰り返し説明をしても道具の設置・収納場所を理解できず、準備や後片付けに支援や介助を要する。

[各選択肢の基準]

(ア) 全面的な支援が必要：準備や後片付けのほとんど全てに支援を要する。

(イ) 部分的な支援が必要：準備や後片付けについて、一部支援を要する。あるいは、繰り返し説明しても道具の設置・収納場所を正確に理解できないが、指示等の支援をすれば準備または後片付けができる。

(ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

テ. 作業技術の習得及び作業の遂行に関する支援

[→身障入所授産ニに同じ。]

作業を遂行する上で、補助具や支援を必要とするかどうかを判断する。（ただし、本項目は、作業の内容理解を問うものではない。）

具体的な対象例としては、

- ① 身体障害により、作業に必要となる専門的な道具（パソコン、電動のこぎり、農機具等）を使用するために本人の状況に合わせ特別の補助具が必要である。
- ② 作業全般について、個別の工夫や支援を行う等の手助けを必要とする。（知的障害や、認知・記憶・注意等の障害を併せ持つ者を含む。）

[各選択肢の基準]

- (ア) 全面的な支援が必要：個別の補助具を必要とし、その補助具の使用を含めた作業技術の習得を必要とすることに加え、なおかつ作業の遂行のために、手助けを必要とする。（聴き取りの際には、生活関連行為や作業の遂行に当たり、現在、補助具を使用していることに加え、手助けを受けている状態であれば、本選択肢に当てはまるものと判断する。）
- (イ) 部分的な支援が必要：個別の補助具を必要とし、その補助具の使用を含めた作業技術の習得を必要とする。（聴き取りの際には、生活関連行為や作業の遂行に当たり、現在、補助具を使用している状態であれば、本選択肢に当てはまるものと判断する。）
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

ト. 各々の障害に応じたコミュニケーション手段による支援及びコミュニケーション訓練

〔→身障更生ト、身障療護ノ、身障入所授産ヌに同じ。〕

視覚障害、聴覚障害、言語障害あるいは盲・ろうの重複障害等、各々の障害に応じたコミュニケーション手段・機器（例：点字、音声出力、印刷物の拡大、手話、指文字、意思伝達装置等）による支援を必要としているかどうか、また、コミュニケーション手段の習得について支援が必要であるかどうかを判断する。（知的障害や認知・注意・記憶障害等を併せ持ち、コミュニケーションが制限されているために、支援を必要とする場合を含む。）

〔各選択肢の基準〕

- (ア) 全面的な支援が必要：上記に示すいずれかの障害により、コミュニケーション支援機器の利用や手話等といった特別のコミュニケーション手段の習得について支援を要する。
- (イ) 部分的な支援が必要：コミュニケーション支援機器やコミュニケーション手段を必要とする。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

ナ. 代筆、電話の仲立ち等に関する支援

〔→身障更生ナ、身障療護ハ、身障入所授産ネに同じ。〕

「読み」、「書き」、「会話」に制限がある（例：視覚障害、聴覚障害、言語障害あるいは盲・ろうの重複障害、脳性まひ等の機能障害）、あるいは電話やFAXといった通信機器の操作に制限がある（例：上肢機能障害等）ため、代筆や電話の取次ぎ、電話の応対をする等の支援を必要とするかどうかを判断する。

〔各選択肢の基準〕

- (ア) 全面的な支援が必要：電話やFAXの代行、またはワープロ、パソコン等の操作について支援を必要とする。
- (イ) 部分的な支援が必要：電話やFAXの使用、またはワープロ、パソコン等の操作について見守りや確認といった支援を必要とする。
- (ウ) 支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

ニ. 退所後の生活支援の体制作り等に関する支援

〔→身障入所授産ノに同じ。〕

4 身体障害者授産施設支援（通所）

在宅生活を想定した場合、障害者用住宅の確保や住宅の改造、日常生活上の様々な行為（買い物、食事、洗濯等）に対する支援の体制作りを必要とするかどうかを判断する。

〔各選択肢の基準〕

- （ア）全面的な支援が必要：全身性障害者（四肢まひ、脳性まひ）等や知的障害を併せ持つ者であって、住宅改造や日常生活上の様々な行為について多くの支援を必要とする。
- （イ）部分的な支援が必要：（ア）で挙げたような障害状況にはないが、住宅改造や日常生活上の様々な行為について支援を必要とする。
- （ウ）支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。

ヌ. 就職先の選定及び就職先との調整に関する支援

退所後に就職を希望している場合（福祉工場、小規模通所授産施設、小規模作業所等を含む。）に、就職先の選定や就職後の連絡・調整等について個別的支援が必要であるかどうかを判断する。（聴き取りの際には、職場環境等の改善（車いす対応等）や、特別な障害者用補助機器（音声入力装置、特殊スイッチ等）の用意が必要であるかにより判断する。）

〔各選択肢の基準〕

- （ア）全面的な支援が必要：四肢まひ、脳性まひ、盲・ろう重複障害、身体障害に併せ知的障害を持つ等の重度あるいは重複障害者であり、上記のような希望先の職場環境等の改善や障害者用補助機器の用意が必要である。
- （イ）部分的な支援が必要：（ア）で挙げたような障害状況にはないが、職場環境等の改善や障害者用補助機器の用意が必要である。
- （ウ）支援の必要性が低い：上記（ア）・（イ）のいずれにも該当しない。